

15. 高知県立大学看護学会

高知女子大学看護学会は、看護学の進歩発展と、地域の看護職者の研鑽および看護の質向上に貢献することを目的として、看護学会の開催、公開講座の開催、高知女子大学看護学会誌の発行、奨学金の貸与などの活動を行っている。令和6年8月からは、名称を高知県立大学看護学会に変更し、活動の充実に努めている。本学会の運営委員の約半数は、本学部の教員が引き受けており、学外のような現場で活躍している運営委員とともに活動に取り組んでいる。また、運営委員以外の学部の教員からも多くの協力を得て、これらの諸活動をスムーズに展開することができている。

1) 第50回高知女子大学看護学会の開催

「新たな看護実践知を『共』に『創』ろう」をメインテーマとして、令和6年7月20日（土）に開催した。遠方からも参加いただけるよう、今年度も高知県立大学池キャンパスの会場での対面とオンラインのハイブリッドで行った。卒業生や修了生をはじめとする県内外の施設の看護職者や学生など、会場に85名、オンラインで29名、計114名の参加があり、活気ある学会となった。

○講演

午前は、近畿大学医学部・病院運営本部 看護学部設置準備室 教授の小松浩子先生を講師に迎え、「共に創る健康生成：看護の視座から発展を考える」というテーマでご講演いただいた。「共創」という概念の考え方や保健医療分野における共創について国内外の知見を交えながら説明し、講師が実践・研究・教育を通してチャレンジしてこられた「共創」についてご紹介いただいた。開催後のアンケートでは、「共創という概念は公衆衛生看護の考え方、そのものであり、臨床系の方などの連携が深まり住民と共に地域課題に取り組めると良いと考えた。」「ケアが地域社会に根付いていくプロセスには看護プログラムが活かされることを学び、その中で目指すものへの価値の醸成となることを実感した。看護のもつ力が潜在性の発揮に貢献するような活動を行っていききたいと思う。」といった意見があった。参加者にとっては、講師の共創的な活動から刺激とエネルギーを得るとともに、共創の本質やあり方への理解を深め、様々な場でいかにして看護の強みを活かしつつ周囲の人たちと共に新たなケアを創成していくかを考える機会となっていた。

○リレートーク

午後は、新たな企画として、メインテーマの下に4名のスピーカー（野嶋佐由美氏、藤田佐和氏、小澤若菜氏、岩崎順子氏）によるリレートークを行った。参加者アンケートでは、「先生方からの発信にとっても刺激をいただいた。」「スピーカーの方の話が熱すぎて時間が足りなかった。もっと聞きたかった。」「実践知をいかに理論的な視点で概念化し、対策の取り組みに繋げるのか、大学と協働する意味を実感した。」といった感想があり、各スピーカーの考えや熱意、取り組みなどに触れることで、視野が広がるだけでなく、大学とのつながりを実感できる場となっていた。

○ワークショップ

メインテーマの下に5つのワークショップを開催し、話題提供と有意義な意見交換が行われた。

□ワークショップ1 病気や障がいのある子どもと家族を支える子どもホスピスの創造

話題提供者：濱田 裕子（下関市立大学 看護学部設置準備室／NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト代表理事）

コーディネーター：笹山 睦美（高知医療センター 小児看護専門看護師）

□ワークショップ2 身体的な健康問題を抱える患者をチームで支えるためのシステム構築

話題提供者：井上 智恵（京都済生会病院 慢性疾患看護専門看護師）

コーディネーター：有田 直子（高知県立大学看護学部 准教授）

□ワークショップ3 当事者・家族の知恵を集めて高次脳機能障害と向き合う

話題提供者：瓜生 浩子（高知県立大学看護学部 教授）

コーディネーター：中平 洋子（聖カタリナ大学看護学部 教授）

□ワークショップ4 臨床と教育機関で取り組む新たな看護学実習

話題提供者：内田 雅子（高知県立大学看護学部 教授）

窪田 美穂（高知医療センター 慢性心不全看護認定看護師）

加藤 昭尚（高知県立大学看護学部 助教）

コーディネーター：原田 千枝（高知大学医学部附属病院 看護部長・副院長）

□ワークショップ5 卒業後に私が挑んでいる看護実践

話題提供者：高村 智絵（高知中央訪問看護ステーション 訪問看護師）

猪野 郁美（高知赤十字病院 助産師）

今西 清か（新居浜市立川東中学校 養護教諭）

コーディネーター：久保田 聡美（高知県立大学看護学部 教授）

2) 高知県立大学看護学会誌の発行について

学会誌を2巻発行した。詳細は以下の通りである。

- ・高知女子大学看護学会誌 第49巻2号：令和6年6月発行

総説2編、原著論文4編、研究報告4編

令和5年度高知女子大学看護学会公開講座報告

- ・高知県立大学看護学会誌 第50巻1号：令和6年12月発行

原著論文2編、研究報告2編、資料3編

第50回高知女子大学看護学会報告、令和6年度高知女子大学看護学会総会報告

3) 令和6年度 高知県立大学看護学会「公開講座」について

10年以上にわたり研究方法に関する公開講座を継続しているが、令和5年度よりテーマと内容を刷新し、2年目の開催となった。詳細は表1のとおりである。実施後アンケートでは、いずれの回も回答者の9割以上が「満足できた」または「やや満足できた」と回答した。また、研究に取り組む心理的ハードルを下げるのができた、今後研究を進めていく上で方法のガイドとなったといった感想があり、研究を進めていく上での知識の獲得と動機づけになっていた。しかし、参加者が少ないため、より多くの方に参加していただけるよう広報活動の充実などを図っていききたい。

表1 令和6年度 公開講座

	タイトル	講師	参加者数	日程
第1回	現場でいかせる！看護研究 研究計画の立案	瓜生 浩子	9名	8月25日（日） 9:30～12:30
第2回	現場でいかせる！看護研究 量的データの収集と分析結果の読み方	岩崎 順子	11名	13:30～16:30
第3回	現場でいかせる！看護研究 質的データの収集と分析方法	高谷 恭子	13名	9月28日（土） 9:30～12:30
第4回	現場でいかせる！看護研究 事例研究	田井 雅子	12名	13:30～16:30

4) 奨学金の貸与

奨学金貸与事業活性化のための対策として、令和5年度より奨学金返還期間を延長したこともあり、令和6年度高知女子大学看護学会奨学生に4名の応募があった。審議の結果、応募者2名への貸与が承認された。引き続き、奨学金について広く学会員に周知を図り、活用率の向上に努めたい。